

令和6年度(2024年度) 第1回 健康すいた21推進懇談会 議事要旨

開催日時	令和6年(2024年)8月7日(水)午後2時から午後4時まで
開催場所	吹田市保健所2階 講堂
出席者	岡本 玲子委員長、中村 清美副委員長、新居延 高宏委員、高木 忠徳委員、 三田 康子委員、桑田 智代委員、谷 将行委員、円野 久子委員、澤井 徹委員、 山本 保治委員、山本 雅子委員、鈴木 亮佑委員、永田 庸子委員、瀧澤 廣成委員、 井上 浩委員 (以上15名)
欠席者	なし
傍聴人	なし
議題	(1)健康すいた21(第3次)中間見直し(中間評価)の方向性の確認 (2)健康すいた21(第3次)分野別取組の評価と今後の方向性 ア 分野5 歯と口腔の健康 イ 分野6 たばこ ウ 分野7 アルコール
資料	資料 1 健康すいた21(第3次)中間見直し(中間評価)の方向性の確認 資料 2 国・大阪府の健康増進計画について 資料 3 健康すいた21(第3次)分野別取組の評価と今後の方向性 資料 4 健康すいた21(第3次)中間見直し(中間評価)の主な論点について 参考資料1 健康すいた21(第3次)概要 参考資料2-ア、ウ 健康すいた21(第3次)進捗確認シート(行政) 参考資料2-イ スモークフリー推進取組状況(行政) 参考資料3 健康すいた21(第3次)進捗確認シート(地域団体) 参考資料4 健康すいた21(第3次)分野別評価指標一覧 参考資料5 健康すいた21(第3次)分野別参考値一覧 参考資料6 健康すいた21推進懇談会設置要領 参考資料7 健康すいた21推進懇談会委員名簿

## 発言概要

### (1) 健康すいた21(第3次)中間見直し(中間評価)の方向性の確認

【参考資料1について事務局から説明】

意見、質問等なし。

【資料1及び2について事務局から説明】

意見、質問等なし。

### (2) 健康すいた21(第3次)分野別取組の評価と今後の方向性

ア 分野5 歯と口腔の健康

【資料3-ア、資料4について事務局から説明】

委員長

取組の評価や方向性について意見はありますか。また、目標達成に向け、市や関係団体が連携して今後取り組めそうなこと等ありますか。

委員

取組の評価指標にある歯科健診受診率はどのようにして算出していますか。

事務局

無作為抽出の市民アンケートの調査結果から算出しています。

委員

昨年度から吹田市歯科健診の対象年齢を15歳から74歳までとし、生涯を通じた歯科健診を全国で初めて実施しています。吹田市歯科健診の受診率は20%もないと思います。せっかくですので、吹田市歯科健診の受診を積極的に促していただければと思います。吹田市では市民の方全員に個別で勧奨はがきを送付していますか。

事務局

市民の方全員への個別の受診勧奨は行っていませんが、国保健診対象者への通知に歯科健診の案内を同封しています。また、30歳代健診の案内を送付する際にも、歯科健診の案内を同封しています。

委員

12歳(中学1年生)における永久歯のおし歯経験歯数は目標を達成していますが、具体的な要因はありますか。また、今後もっとおし歯経験歯数を減らせると考えていますか。

委員

学校歯科医が毎年1回、学校に保健指導に行っている成果がでてきているものと考えています。府内では高水準ですが、全国でトップクラスとまでは言えないため、もう少し減らすことはできるのかと思います。

## 事務局

市でも歯科医師会協力のもと、乳幼児の歯科保健に長年取り組んでおり、子供の頃から家族ぐるみで歯を大事にする家庭が増えているように思います。様々な啓発の効果が表れたものと考えています。

## 委員

家庭環境によって、むし歯経験歯数に違いはありますか。

## 事務局

家庭環境の違いかは分かりませんが、就学前の歯科健診では、子供によってむし歯の歯数等に違いがあります。

## 委員長

噛むや飲み込むといった、食べることは歯と関連が深いと思っています。食育の取組を行う中で、意識されていることはありますか。

## 委員

小学5年生、中学2年生を対象とした生活習慣予防のための講演会では、問題点の一つとして、早食いを上げており、噛むことの重要性を説明しています。また、よく噛むために食材を大きく切る、噛み応えのある食材を使うといった工夫も伝えています。

高齢の方に対しては、飲み込みにくさを解消するため、とろみをつける等、調理での工夫を栄養教室等で、伝えています。また、食べやすいもの、柔らかいものを好まれるようになり、噛む力が衰えている方もおられることから、よく噛む必要があるレシピ「かみかみレシピ」を作成し、吹田市のホームページに掲載しています。

## 副委員長

歯と口腔は、食べることに関連が深いので、食育の場面でも歯磨きをしているか、健診時に歯石のチェックをしているか等、一般的な声かけを行うよう心がけています。また、高齢の方と接する際には、おしゃべりするなど口を動かすことの重要性も伝えています。

## 委員

昔に比べ、歯並びやかみ合わせに対する意識というのは高まっていると感じています。歯と口腔の健康にかみ合わせに関する指標等は入らないものですか。

## 委員

歯・口腔の健康づくりの考え方には歯列というのはあります。

## 事務局

国が令和4年度に実施した調査では、かみ合わせがよくない子供の割合が増えているというような結果が発表されており、よく噛んで食べること等との関連が指摘されていますが、その要因ははっきりとわかっていません。

## 委員長

今後、指標に設定されることもあるかもしれないですね。

## (2) 健康すいた21(第3次)分野別取組の評価と今後の方向性

### イ 分野6 たばこ

【資料3-イに基づき事務局から説明】

## 委員

薬剤師会では、公立の小中学校で薬物乱用防止教室を実施し、たばこやアルコール、薬物、薬の正しい使用方法について啓発しています。昨年、市と協力しアンケートを実施した結果、「将来たばこが吸いたいと思うか」という質問に対し、水蒸気が出る加熱式たばこや、フルーツのような味がするたばこには興味があるといった回答がありました。今後の啓発においては、こうした結果も踏まえた加熱式たばこについても働きかけが必要と感じました。

## 委員

協会けんぽの加入者は中小企業の従業員とその扶養者が多い状況です。2022年度のデータでは、男性の喫煙率は37.6%と全国的にも高くない数字となっていますが、女性の喫煙率は16.9%と全国で41位と、よくない数字となっています。

協会けんぽ大阪支部では、保健師、管理栄養士等の専門職が保健指導を行う際に、禁煙をサポートするという事業を実施しています。また、自治体が行っている受動喫煙対策事業を健康経営や健康づくりに関する事業と合わせて紹介しています。

## 委員

スモークフリー協賛機関一覧を見ると医療機関が多く、事業者は少なかったです。商工会議所が支援している小規模事業者の方に登録に関するチラシを配布するといった協力はできるかと思います。

協賛機関に登録するとインセンティブが発生するといった仕組みがあれば、事業者も登録しやすいのではないかと思います。

## 委員

スモークフリーという言葉を知ったことはありましたが、取組までは知りませんでした。分煙も大事ですが、喫煙者数を減らすことに、より重点を置くべきだと思います。たばこには依存性があり、一度禁煙に成功しても、何らかのきっかけでまた喫煙を始める人も多いと感じています。自分自身も何度も禁煙しましたが、喫煙してしまい、病気になった時によりやくやめられました。喫煙者が体の不調等を感じて医療機関を受診した際に、たばこによる健康への影響の可能性を伝えることは、喫煙をやめる良いきっかけづくりになると思います。

## 事務局

市では禁煙チャレンジという禁煙治療を始める方への補助事業を実施しています。委員のお話を聞き、実際にたばこを吸っておられた方や、医師、薬剤師の方からの声をお伝えすることが、禁煙を開始するきっかけ

に繋がるのかなと改めて思いました。今後とも周知、啓発に御協力いただければと思います。

#### 委員

健康づくり推進事業団では、地域に出向いて様々なイベントを実施しているため、啓発の場として、積極的に活用していただければと思います。

行政・地域団体の取組のうち、「20歳未満の人の喫煙防止のための教育」という言葉に違和感を覚えました。子供の頃からたばこが健康に及ぼす影響について伝えるという意味だと理解はしていますが、20歳未満の喫煙は法律で禁止されていることから、「20歳未満の人の喫煙防止」という表現は適切ではないと思いました。趣旨からすると「20歳未満の人へ教育」という記載が適切なのかなと思います。

#### 事務局

市では薬物乱用防止教室やキッズ健康サポーター教室を通じて、喫煙ができる年齢になっても喫煙しない選択ができるような教育を進めています。

#### 委員

取組の評価指標にあるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)というのは、たばこ関連が深い病気ですが、肺だけではなく、全身の血管に悪影響を及ぼし、脳梗塞や心筋梗塞等を引き起こします。COPDは進行するまで自覚症状が乏しく、肺機能検査等詳しい検査をしないと発見しにくいいため、健診等の場において喫煙者に禁煙指導等を行い、たばこがなぜよくないかを科学的に説明することが大切だと思います。

禁煙治療について、内服薬のチャンピックスが販売された際にパッチ製剤よりも禁煙効果が高いというエビデンスがアメリカで発表されたことが影響し、パッチ製剤の使用が進まないのではないかと考えています。

### (2)健康すいた21(第3次)分野別取組の評価と今後の方向性

#### ウ 分野7 アルコール

【資料3-ウに基づき事務局から説明】

#### 委員

飲酒をしている人は肝臓が悪いからといって医療機関に来ることはほとんどないことから、健診等で早期発見することが大切です。昨年度、厚生労働省から健康に配慮した飲酒に関するガイドラインが発表され、純アルコール数で20g、缶ビール500mlで1本という摂取の目安が示されましたが、それよりも体にどういった影響を与えるかを伝える必要があります。

海外のカフェやバーでは、グラスに純アルコールのラインが引いてあり、一定量以上を飲むと病気のリスクがあるといったことを、視覚的に啓発しています。また、休肝日等を記録するカレンダーアプリというのがあるため、そういったツールを活用するのも良いと思います。

#### 委員

産業保健師として働く人の相談を受けています。コロナ禍により、在宅勤務を導入する企業の増加、人々が集まる機会の減少等、生活様式の変化により手軽にストレスを発散する方法として、飲酒を選ぶ人が増えているのではないかと推察しています。また、アルコール以外にもゲーム等への依存が課題になってくると懸

念しています。ストレス発散として飲酒以外の行動ができるような取組を進めていく必要があると思います。

#### 委員

吹田市社会福祉協議会には吹田市断酒会が組織構成会員として所属しています。アルコール依存症の当事者がお酒をやめる決心をしても環境的にやめるのが難しい、また、家族が同じ悩みを持っていたり、孤立されたりということが非常に多いと感じています。断酒会に参加し、当事者同士が交流することで、気持ちが和んだり、頑張れるきっかけにつながっているという話も聞いています。

また、市内のボランティアグループが市内2ヶ所でコミュニティーサロンを開き、使用済みの切手やペットボトルの選別等、簡単な手作業を行いながら、参加者同士が交流したり、ボランティアの方が話し相手になる等、孤立した人がそういった集まりに定期的に参加することで、こころの安定につながっていると聞いています。アルコール依存症の方が立ち直っていこうというときに役立てればいいのかと思っています。

#### 委員

若い人が飲酒する場面をテレビや CM で目にする機会が多いと感じています。また、ノンアルコール飲料も普及していますが、アルコールを始めるきっかけに繋がっているのではと思っています。たばこにも共通しますが、飲酒、喫煙が当たり前と感じられる雰囲気ではなく、飲まないという選択ができるよう働きかけることが大事だと思います。

#### 委員

コロナも落ち着き、団体での会議等、人が集まる機会と合わせて、お酒を飲む機会も増えていると感じています。

#### 委員長

飲酒に関してはガイドラインが策定されたということですが、事務局から何かありますか。

#### 事務局

20歳代は飲酒ができる年齢ですが、多量飲酒によって脳の影響や高血圧等の健康問題のリスクが高まる可能性が指摘されています。アルコールの害を受けやすいということもあるため、企業と連携し、飲酒を始める年代である大学生への啓発に力を入れていきたいと考えています。飲酒に関するガイドラインに沿って、属性に応じた啓発を行っていきたいと思っています。

#### (3) 今後の予定：次回の懇談会日程について、事務局から説明

次回の会議は10～11月頃に、残りの5分野について議論を予定。

#### (閉会)